

自然教室（京大植物園）・レポ

京大理学部植物園・北白川試験場 見学と周辺社寺樹木の散策

小島 武雄

6月19日(月)自然教室が臨時開催されました。晴天に恵まれ、叡山電車「出町柳駅」に朝9時30分に25名が集合。

京都大学理学部植物園まで歩いて約15分。大学入口沿道に並ぶヒマラヤ杉の大木を眺めて、門をくぐるとすぐそばの植物園の入り口扉は既



に開かれていました。利用許可書をポストに入れて、さあ入場です。

1923年に開設され今年で100年、面積は1.65haあります。門柱の表示板は歴史を物語っていました。現状は、植物園と言うよりは、まるで都会のジャングルでした。事前の調べでは、私たちにあまり馴染みの無い樹木が、入り口に周辺に植えられています。ウルシ科のチャンチンモドキ、ポポーなど、ホソバイヌビワは、ちょうど剪定してあり、オレンジの実が確認されました。竹類の見本園では珍しい種類を横目に、歩いていきます。鬱蒼(うっそう)たる100年を経た樹木はとても太く、高く聳(そび)え立ち、上の方はよく判りません。花期を迎えているユクノキは何処か解らず、やっと見つけたサイカチは、トゲが見つかりません。カゴノキ、

ユサン、ナタオレノキ、シロマツの青い木肌、すべてが大木で圧倒されます。ゴモジュ、シナノキは見つからず。疏水の水を引いた池の側、メタセコイアの大木の周りにはオレンジ色の大きなマメや、得体の知れない大きなサヤ豆のような物がたくさん落ちていました。蚊の襲撃もあり、観察については、残念ながら消化不良の約50分の滞在でした。



次は北白川試験場へ移動します。途中サラブレッドを連れた馬術部の学生とすれ違い、湯川秀樹博士の彫像に挨拶。試験場は面積1.3ha旧演習林の保存建物から入って行きます。こちらにも入場証に記入して入ります。まず事前に鍵を開けて貰った「材鑑室」に入ります。全国の京大演習林から集めた針葉樹20、広葉樹86、の幹や樹皮が建物の中一杯に整然と隙間なく立ち並べられています。結構太く、その迫力に圧倒されます。充満した樹木の香りも心地よい。

試験場内では、担当の方に北山杉の台木の説明も伺いました。ここの滞在は約30分。欧米北米原産70種、アジア原産100種、日本の樹木は北から南へ250種とても見切れません、またの機会に。

次は吉田山へ登ります、昼食後は大元宮、宗忠神社のオガタマの木を見て、真如堂の青紅葉、ボダイジュの実、シャラの花を見て金戒光明寺へ、みんな気温に身体がついていけず、少々お疲れ。ここで途中解散6名。さらに白川を越えて歩いて、南禅寺境内で一息つき、疏水閣に上がり蹴上まで涼しい疏水の流れ添いに歩きインクラインへ。午後2時30分地下鉄「蹴上駅」で解散しました。皆さまお疲れさまでした。ちなみに、私の万歩計は2万17歩でした。

(案内人)